

Mamiya

Vol.
7
2004

SPRING/SUMMER

Gallery

撮影 石川 賢治





総評

MCCフォトコンテストも8回目になりました。前回の総評で良い意味で他の作品に影響を受け、被写体やテクニックの巾が広がってきたと書きましたが、今回の作品を拝見して、さらにその視点が生かされ、同じ被写体でも独創的で個性豊かな作品が増えていると感じました。又、新会員の方々からの応募が増え、健闘が目立ったことも大変喜ばしいことです。

日本写真家協会会員 原 弘男



金賞
『光のファンタジー』 木佐貫 哲哉(埼玉)



氷の粒がキラキラと虹色に輝いている様子はまさに“光のファンタジー”です。
霜の降りた朝の何げない情景を夢の一コマに表現した作者の観察眼と表現力はお見事です。
645AFD AF ULD105-210mmF4.5 f11 1/90秒 RVP100



銀賞

『遊 泳』 佐川 俊夫(東京)

蘭の一種でしょうか、水中をゆらゆらと舞っているような姿がユーモラスで面白いです。
少しフレアーがかかっていますが、かえて幻想的な雰囲気が増して良かったと思います。

645プロTL マクロC80mmF4N f22 オート RHP



銀賞

『ダケカンバ光る』 飯塚 光男(東京)

霧氷もキレイですが、何よりも画面構成が素晴らしいです。青空いっぱい霧氷を配したところはお見事！
43mmの超広角レンズを巧く使いこなしている点に感心いたしました。

マミヤ7Ⅱ N43mmF4.5L f22 オート E100VS



銅賞

『幽玄』 縣 信元(東京)

霧にけむる新緑のブナ林。実際には明るく爽やかな印象だったと思いますが、露出をアンダーにして、ご自分のイメージの世界を作り出している点を評価しました。

645プロTL ULD C105-210mmF4.5 f22 オート RVP100



銅賞
『朝焼けの川』 中田 友一(栃木)

岸辺に氷が張っているので寒い朝なのでしょうが、どこか温もりを感じるのは、光の具合だけではないでしょう。何げない景色の中にあるしみじみとした懐かしさがその温もりを引き出しています。
RZ67プロ Z50mmF4.5 f32 1秒 RVP



銅賞
『氷のオブジェ』 生頼 弘(奈良)

自然の造形の面白さをうまくフレーミングしています。ピントが極めてシャープな事と光線の具合で画面全体に立体感を出した事が良かったです。被写体を注意深く観察した成果です。
645プロTL マクロA120mmF4M f22 オート RVP PL



入選
『花と蝶』 林 吉孝(神奈川)

赤と黒のコントラストが際だった力強い作品です。主人公の蝶の目にピントが合っていない事が少し残念です。黒の分量が多いので上と左をカットするとさらに良くなるでしょう。

RB67プロS C127mmF3.8 f3.8 1/30秒 EPP PL



入選
『冬に咲く華』 佐藤 進(東京)

タングステンフィルムで雪の冷たさを表現したのが成功しています。ゴーストの位置から昼近くの写真だと思いますが、早朝のような静けさがあります。絞りを開けて手前の霧氷に的を絞っても良かったかも知れません。

645プロTL C55-110mmF4.5N f32 オート RT



入選
『里山の朝』 柏熊 幹雄(東京)

晩秋の棚田もちょっと寂しげな雰囲気があつて良いものですね。霧が巧い具合に出ています、もう少し早い時間だと光線状態がもっと良かったかも知れません。下部は少しカットした方が良いでしょう。

RB67プロSD KL210mmF4.5APO/L f22 1/8秒 RVP100 PL



入選
『水中花火』 川野 豊彦(広島)

多重露光撮影でしょうか、それぞれの花火がバランス良く配置されている点が良かったと思います。鳥居や人物が程良いポイントとなっており、画面に奥行き感を与えています。

645プロTL C55-110mmF4.5N f8 バルブ RVP



入選

『UFO雲』 前田 吉之助(東京)

前回の魚雲には驚きましたが、今回は赤富士と一緒にというのがポイントでした。富士山と雲のバランスがきまっています。これからも頑張って面白い不思議な雲を見せていただきたいと思います。

RZ67プロ シフトZ75mmF4.5W f32 オート RVP UV



入選

『月下美人』 佐伯 保則(千葉)

白い花びらの質感が良く出ています。背景が一色だといかにも室内撮影という感じになるために背景に変化をつける工夫が必要です。又、ストロボ撮影では絞り過ぎにも気をつけて下さい。

645プロ C80mmF1.9N f16 1/60秒 E100VS

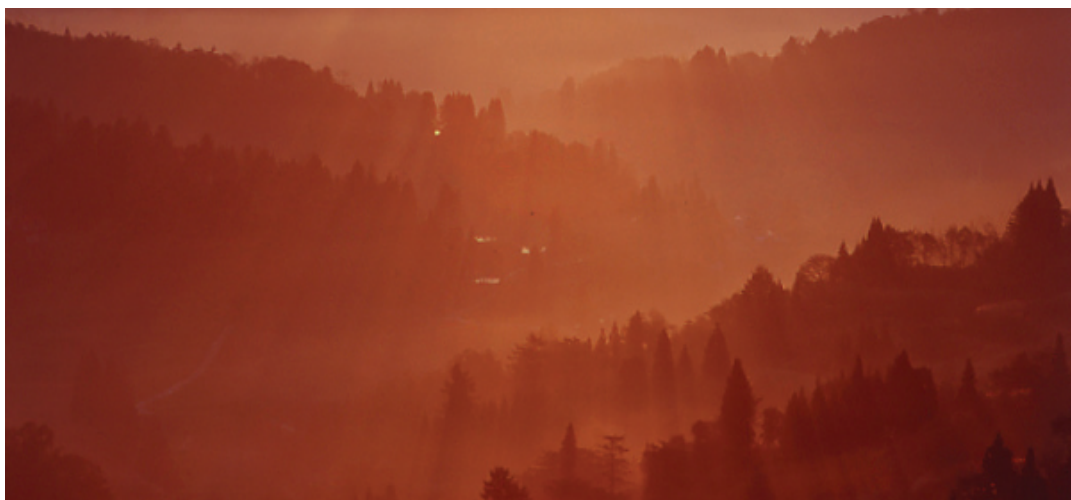


入選

『秋の彩り』 井川 クキ子(東京)

大変キレイな紅葉ですね。赤や黄色のいろどりがバランス良くまとまって、ブナの樹木の配列にもリズム感があります。それだけに手前の緑が多いのがやや気になります。

645AFD AF55-110mmF4.5 f32 4秒 RVP100



入選
『光 芒』 山本 貴一(新潟)

ボジには画面下に棚田が写っていますが、応募のプリントは棚田をカットしています。その結果
光芒が強調され、作者のイメージがより明確になっています。トリミングが功をなしています。
645AFD AF ULD105-210mmF4.5 f16 オート RVP100



入選
『雪の造形』 工藤 隆司(千葉)

面白い形の綿帽子ですね。雪の降っている様子が良くわかります。
シャッタースピードの設定が的確だったからでしょう。右と下を
少しづつカットするとより主題が強調されます。

RB67プロS KL250mmF4.5APO/L f22 1/125秒 RVP



入選
『錦秋の槍ヶ岳』 山崎 泰(栃木)

スケールの大きい山岳写真では特に中判カメラのメリットが大き
く、この作品からもその醍醐味を感じます。中判カメラで被写体に
対峙する時の緊張感が作品から表れるためではないでしょうか。

RB67プロSD KL90mmF3.5L f22 1/4秒 E100VS PL



Photo Contest

9

写真の醍醐味、多彩な個性の競演・・・

それがMCCフォトコンテスト。

第9回の応募期間は4月1日(木)～5月31日(月)です。

写真テーマは自由です。ふるってご応募ください。



金賞 『水 鏡』 八坂 博孝(神奈川)

同じ被写体を撮影された応募作品がありました。構図もほぼ同じですが、一方は選外となってしまいました。優劣を分けたのは露出です。本作品は露出がアンダーであったため、水辺のサラサドウダンの紅葉が際立ち、暗く沈む針葉樹林に囲まれた湖水のたたずまいが一層強く表現されました。

RB67プロSD KL250mmF4.5L-A f16 1/15秒 RVP

総評

10月中旬になつての撮影会であったために、標高2000メートルを超える白駒池辺りは秋色の最盛期が過ぎていました。しかし天候に恵まれて、応募作品が出揃った12月中旬、皆様の作品を拝見させていただきました。2日間の日程で限られた場所での撮影会でしたが、それぞれ違った被写体に心ひかれたことが感じ取られる多彩な作品群を拝見することが出来ました。

風景写真の場合、パンフォーカスの映像表現が多く、今回もそのように画面構成した作品がほとんどでした。しかし作品を拝見すると、ピント位置がずれていたり、カメラ振れしたりしている作品が目立ちました。これではどんなに美しい被写体を撮らえた作品であっても台無しになってしまいます。カメラをしっかり三脚に固定し、プレビューボタンでピント部分を確認する撮影を心掛けて下さい。

写真家 石橋 睦美



銀賞 『晩秋の流れ』 太田 秀男(長野)

金賞を争った作品です。早朝の溪流のほりに散った落葉が晩秋の風情を映しだして、季節感が表現された作品に仕上がっています。ただ残念なのは、前景の大部分を占める流れにピントが合っていないことです。ピント位置を流れの中間にして、F 22以上に絞り込めば画面全体にピントが来たはずですが。

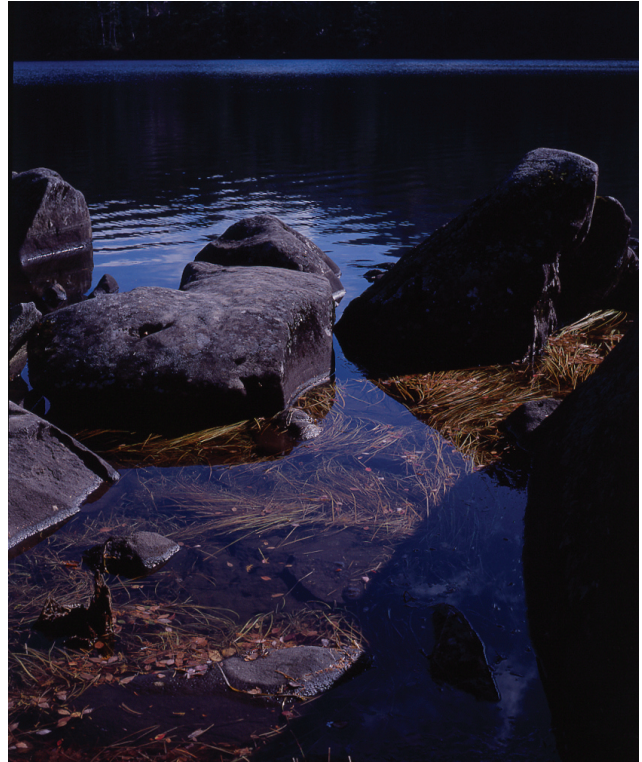
RB67プロS KL127mmF3.5L f16 1秒 RVP



銅賞 『苔の森』 飯塚 光男(東京)

苔に覆われた溶岩の起伏とコメツガの木立ちによって、亜高山帯針葉樹林のたたずまいが表現された作品です。モチーフとなった苔の林床にはピントが合っているのですが、被写界深度を正確に適用できなかつたため背景の木立ちまでピントが届いていません。絞り値F22とありますが、確かでしょうか？

645プロTL C45mmF2.8N f22 8秒 RVP100



銅賞 『秋深し』 佐久間 弘(東京)

岩と水草と落葉、それに青空を映す水面とで秋日の光景を見事に映しとった作品です。ただ縦位置に構図したために、画面全体がやや窮屈になってしまいました。もう少し広いレンズを使用して横位置に構図したら背景の水面にもピントが合って、映像に広がり生まれたはずですが。

ユニバーサルプレス セコール100mmF3.5 f16 1/30秒 RDPⅡ UV

JTB賞 『霧立つ縞枯樹林』 荒川 信利(埼玉)

実力のある方です。本作品のほか、逆光に輝く白駒池の作品も秋の味わい深さを映してとても良い作品でした。他の方の作品に水を被写体にした写真が多かつたせいで、本作品を選ばせていただきました。本作品は前景に木立ちを配し、遠くの森を望むように構図したことが成功しています。ピントもよく、その場の情景を見事に捉えています。

645AFD AF ULD 105-210mmF4.5 f16 オート -0.7EV補正 E100VS





入選 『秋色』 井川 クキ子(東京)

シャドーを背景にヤマブドウを写した感性がピッタリ決まった作品です。ただモチーフのヤマブドウが真ん中に集中し過ぎて、構図をつくる上でもうひと工夫ほしかったと思います。カメラアングルをもう少し上に向け、垂れ下がる葉の状態を加味したら臨場感が生まれ、モチーフに広がりも出たはずでした。

645AFD AF ULD 105-210mmF4.5 f8 1/4 秒 RVP100

入選 『晩秋の滝』 飯島 精三(埼玉)

滝の一部を切り取って構図した映像は迫力があって素晴らしい作品に仕上がっています。露出もまだ陽の射さぬ時間帯の空気感を表すには適正です。残念なのは前景の流れだけにピントが合い、後景の流れにピントが合っていないことです。このような風景では、パンフォーカスの作画をする必要があります。もっと絞って撮影して下さい。

RB67プロSD KL250mmF4.5L-A f11 1秒 RVP100 UV



入選 『生と静』 伊東 勝二(神奈川)

苔に覆われた溶岩地帯に生えるコマツガの生命力を表現した作品です。作者はトリミングしたプリントの応募で、落葉が敷きつめられた林床を強調する構図を考えたようです。しかし現場での作者の眼は樹の形状に魅せられていたと私には思えるのです。もっと自分の感性に自信を持ってください。ほかの作品も含め、オリジナルの画角のほうがどれも数段優れています。

645E マクロA120mmF4M f5.6 オート RVP F



入選 『晩秋』 日野 安喜(東京)

倒木とヒルムシロ、そして波立つ湖面と遠くの森、さらには左上部にほんの少しのぞく空間によって広がりのある風景が画面に生まれました。構図、露出もよく文句のない作品に見えるのですが、映像をつくる全ての要素が均一でテーマ性が薄まってしまいました。例えば、雲間からの陽射しなどを利用して倒木を目立たせる画面構成を考えてもよかったです。

RB67プロS C100-200mmF5.2W f22 1/15 秒 E100VS



入選 『秋彩盛』 木佐貫 哲哉(埼玉)

黒々と沈む木立ちとハウチワカエデの紅葉が一際鮮やかに映る作品です。雑然とした情景を実に旨く捉えているのですが、右に写し込まれた樹が重く安定感に欠ける構図が生じています。紅葉だけで画面を作る試みをしてみてよかったです。それとピントがやや甘いのが気になります。

645AFD AF ULD 105-210mmF4.5 f32 1/10 秒 RVP100

石川 賢治 月光写真について 写真はすべて太陽光の1/465,000 満月の光のみで撮影しました。

いしかわ けんじ

月光写真を撮始めて21年目になります。

大自然の中を、テーマを追って月光に照らされた風景を求め、満月の旅を重ねていますが、行く先々で出会う花にひかれて撮影する事があります。そんな時は、シャープで柔らかい味のレンズで、接写が容易なRZ67プロIIで撮影します。

プロカメラマンは、スタジオで使用する事が多いと思いますが、私の場合は大自然の中を10時間以上歩く時もバックパックの中に入れて行動します。

1945年 福岡に生まれる
1967年 日本大学芸術学部 写真学科卒業
同年、ライトパブリシティ入社
1976年 フリーランスフォトグラファーとして、CF及びスチールを数多く手掛け現在に至る。
1984年 秋より1985年4月まで、月光写真の色と露出テスト(日本、サイパン)
1985年 サイパンで本格的に撮影を開始。以後、奥多摩、伊豆、八ヶ岳、富士山、パリ、ハワイ島、ネパール・パラオ等で月光を撮り続け「月光浴」を発表。
以後、月光写真家として世界各地を巡って作品を撮り続け、写真集や個展での発表を中心に活動を続けている。

写真集

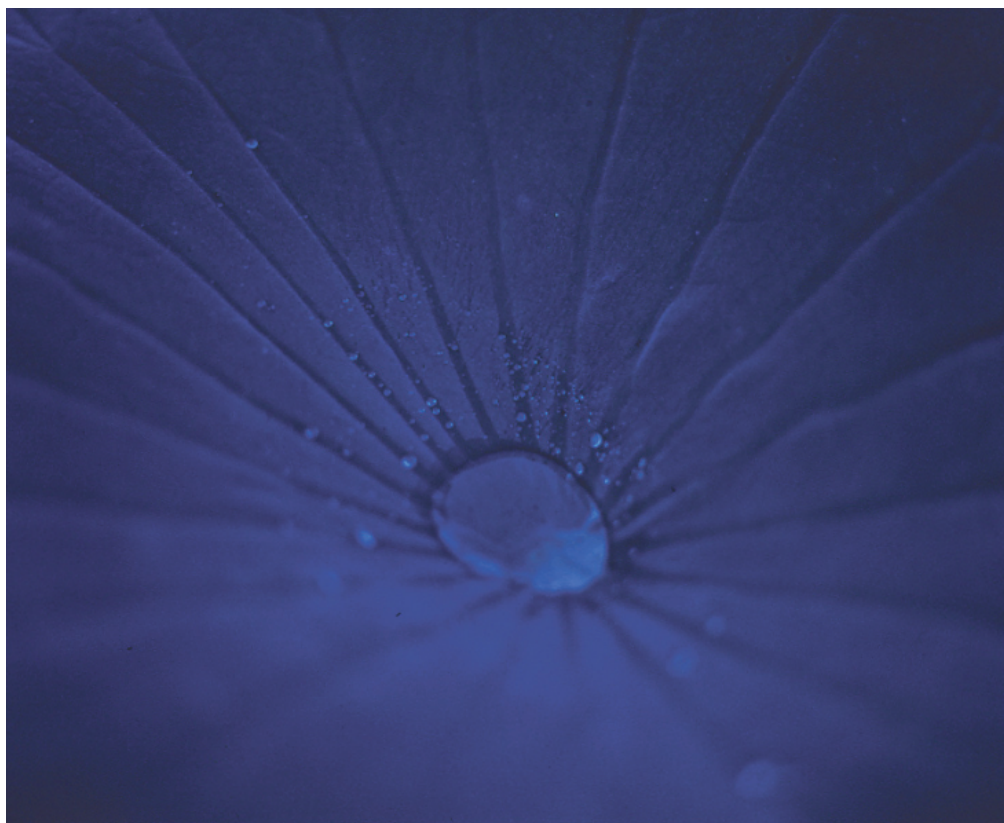
1990年10月 『月光浴 Moonlight Blue』
小学館発行
1993年 4月 『新光浴 神の降りた夜』
集英社発行
1996年 4月 『大月光浴 ORIENTAL MOON』
小学館発行
1998年 3月 『満月の花 Moonlight Flowers』
小学館発行
1998年 3月 『月光の屋久島』 新潮社発行
2001年 5月 『地球月光浴』 新潮社発行
2003年 7月 『京都月光浴』 新潮社発行



RZプロII



RZプロII



RZプロII

絞り

絞りを変えて写真を変える。

絞りはシャッタースピードとともに光量の調整に使われ、適正露出を得る為の大切な機能です。光量調節以外にも絞りを変えることで写真にいろいろな変化をつけることができます。パンフォーカスやパーティシャルフォーカスなど、目的や表現に合わせて被写界深度をコントロールしてみましょう。

F値

レンズの焦点距離を口径で割った値でレンズの絞り目盛Fナンバーは1を基準にルート2(1,41.....)を公比とした等比数列で表わします。

絞りはひと絞りごとに

2・2.8・4・5.6・8・11・16・22・32・45と変化します。これが1絞りです。

ひと絞り(1EV)にどのような変化があるのか覚えましょう。

半絞り 2.8・3.4・4・4.8・5.6・6.8・8・9.5・11・13・16・19

1/3絞り 2.8・3.2・3.5・4.0・4.5・5.0・5.6・6.3・7.1・8.0・9.0・

10・11・12・14・16・18・20・22

1/3絞りはボジフィルムの微妙なコントロールなどに使用することが多い絞りです。

講師 山崎 正路

パーティシャルフォーカス(浅い絞り)

一つの面にのみピントが合っている状態、写真は全面にピントが合っている場合より、目的の部分にのみピントが合っている方が被写体をシャープにみせることがあります。ボケが柔らかなポートレートなどでよく利用されます。人物や眼などの一部だけにピントを合わせて前後をボカすことです。望遠系のレンズを使うと効果的です。

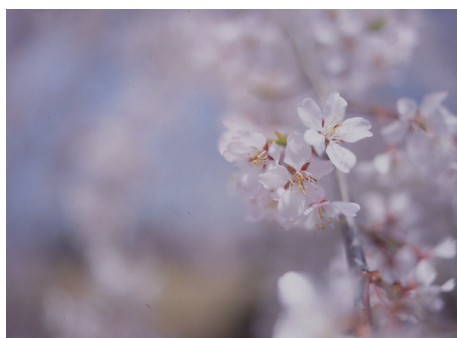


左目にピントを合わせ前後のボケで人物を浮かび上がらせる事ができます。

マミヤ645AFD 210mm f5.6 1/350秒



マミヤ645AFD 80mm 接写リングNo.3



マミヤ645AFD 45mm 接写リングNo.1

パンフォーカス

絞りは絞るほどピントの合う範囲が広がって見えます。雄大な風景などに広角レンズとを使い絞り込むと、前景から無限大までピントが合い効果的です。マミヤ7Ⅱなど距離計連動カメラでは絞りを深くして被写界深度目盛でピントの合う範囲を決めて撮影することもあります。一眼レフでも単体レンズには被写界深度目盛がついています。広角レンズは絞りが深ければ目測でも十分対応できます。



マミヤ645AFD 35mm f11 1/700秒



手前のタイルから無限大にある飛行機まで画面内総てにピントが合っています。
マミヤ7Ⅱ 43mm f22 1/30秒



マミヤ645AFD 35mm f22 1/700秒



マミヤ7Ⅱ 43mm f22 1/15秒

◎ **アウトフォーカス** 焦点の合っていない部分、俗に言うピンボケです。

◎ **プレビュー** 一眼レフカメラのファインダーはいつでも開放状態で被写体を見えています、プレビューを使うと絞り込んだ状態で被写界深度を見ることができます。

被写界深度

一つの面にピントを合わせた時、前後にもピントが合って見える範囲。レンズの焦点距離が短いほど、絞りを深くするほど、撮影距離が遠くなるほど深度は深くなります。マミヤ7の被写界深度目盛は大変見やすくできており43ミリレンズでは約2メートルぐらいに合わせて絞りをF16にすると1メートルから無限大までピントが合うことが分かります。又、80ミリのレンズは同じ条件でも1.5～3メートルぐらいにしかピントが合いません。

全体にピントが合っているか、背景がボケているかで表現が変わります。



マミヤ645AFD 210mm f4 1/125秒

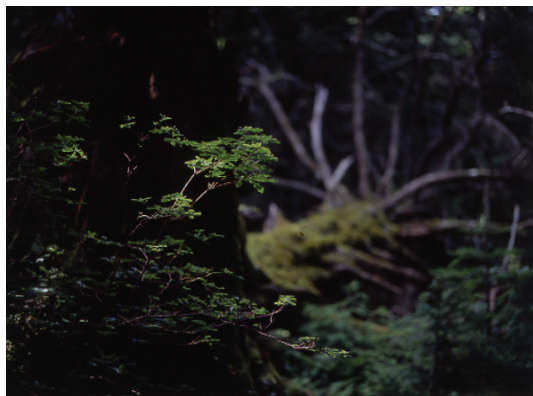


マミヤ645AFD 210mm f16 1/10秒

全体にピントが合っているか、部分的にピントが合っているかで表現が変わります。



マミヤ645AFD 80mm f22 1秒



マミヤ645AFD 80mm f2.8 1/60秒

望遠レンズでは最小絞りでも手前の花にはピントが合いません。



マミヤ645AFD 210mm f4 1/350秒

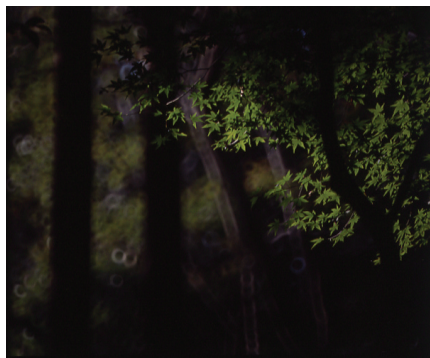


マミヤ645AFD 210mm f32 1/8秒

絞りの形

円に近い形が理想型でボケた部分の点光源などが丸く見え、絞り羽根の枚数や形状で絞りの形が変わります。マミヤレンズの絞りでは円形に近い形が確認できます。レンズの前に黒紙などを貼付けるとボケた部分の絞りの形に変化が付き夜景の時など、にぎやかな表現が可能になります。ミラーレンズなどは独特のリング状のボケが表現出来ます。

ミラーレンズは丸いボケが特徴



マミヤ645AFD 500mm f8 1/300秒

レンズに星形の黒紙を貼るとミラーレンズの様な表現ができる。



マミヤ645AFD 210mm f4 1/30秒



マミヤ645AFD 210mm f4 1/30秒

被写体との距離

被写体に近づくことで背景のボケる部分を大きく出来ます。マクロレンズは被写体に近づくことで大きなボケが期待できます。又、標準レンズや広角レンズに中間リングを組み合わせる事でも背景を適度にぼかすことや背景の状況を見せることも出来ます。被写界深度を稼ぐため絞りを深くするとスローシャッターになり、三脚使用時でも花などの撮影では風の影響で被写体がブレやすくなります。このような場合は風のやむのを待ちリリースでシャッターを静かに切ります。又、予備ホルダーに高感度フィルムを入れてスローシャッターの時に利用するのも良い手段です。



マミヤ645AFD 120mm f6.8 1/20秒

マクロレンズは被写体に近寄るので背景のボケが奇麗にボケる。

◎ハレ切り

開放で撮影すると、逆光ではフレアーなどが出やすくなります。フードだけではカバーしきれない場合は離れた位置でハレ切りをすると効果的です。

◎回折現象

小絞りになり過ぎると画質が落ちる現象ですが、レンズによったり絞りがいくつまで刻んであるかなど条件で変わります。最小絞りの効果を覚えたなら、絞り過ぎない効果も覚えて下さい。絞りの目的は被写界深度のコントロールですので、必要以上に絞り込む必要はありません。

絞りだけを変えるのではなく、広角レンズや望遠レンズの効果も考えて下さい。ズームレンズでもフレーミングだけではなくワイド側、望遠側の絞り効果も考えて作画する必要があります。最終的なプリント、印刷サイズに合わせて絞りを決めることもあります。

35ミリレンズと同じ画角の写真でも中判カメラでは長い焦点距離のレンズが選択されますので、35ミリの時より645で1絞り67で2絞りぐらい絞ると良いと思います。

開放より少し絞った方が画質は上がります。開放のボケ味や柔らかさを大事にするか、画質優先の写真なのかなど、絞りを写真内容や目的で変えることもあります。

マミヤ協賛撮影会&セミナー

マミヤカメラクラブ員に限らず、どなたでも参加できます。

清雲寺・音楽時・法善寺 「秩父桜の名所」撮影会

主催：クラブツーリズム大宮
日時：4月5日(月) 日帰り
講師：中尾継次先生
参加費：6,980円(弁当付)
問合せ/申込：048(649)8833・8844
備考：マミヤカメラの貸出しあり

中判で極める！ 「夕景&夜景写真塾」inヨコハマ

主催：大中判カメラ普及協会
日時：4月17日(土)レクチャー&撮影/4月24日(土)作品講評
講師：真島満秀先生/猪井貴志先生/長根広和先生
参加費：7,000円(120フィルム1本と現像・軽食代含む)
問合せ/申込：03-3222-6622
備考：中判カメラ、三脚、露出計の貸出しあり

林明輝先生と行く撮影の旅 「早春の水風景」華嚴の滝 五十里湖周辺

主催：マミヤ・オーピー
日時：4月24日(土)~25日(日) 一泊二日
講師：林明輝先生
参加費：35,000円(一泊二食付)
問合せ：048-858-4827 マミヤ・オーピー 荒巻/吉澤
備考：マミヤカメラの貸出しあり

「八千穂高原の新緑と レンゲツツジ」

主催：白駒荘/ロッジ・エル・ケーナ
日時：6月9日(水)~10日(木) 一泊二日
講師：秦達夫先生
参加費：新宿集合 25,000円(一泊三食付/交通費含む)
現地集合 18,000円(一泊三食付)
問合せ：090-1549-0605
備考：マミヤカメラの貸出しあり

違いがわかる！志賀高原篇 「大中判撮影会&写真塾」

主催：大中判カメラ普及協会
日時：6月11日(金)~12日(土) 一泊二日
講師：近藤辰郎先生
参加費：27,000円(一泊二食付)
問合せ/申込：03-3222-6622
備考：大判/中判カメラの貸出しあり

写真家 花畑日尚先生撮影指導 「花満開の風景、初夏の 柵池自然園撮影会」

主催：クラブツーリズムカルチャー旅行センター
日時：7月15日(木)~16日(金) 一泊二日
講師：花畑日尚先生
参加費：32,800円(一泊三食付)
問合せ：03-5323-6990 永野
備考：マミヤカメラの貸出しあり

川口邦雄先生同行 「バイカル湖の自然を撮る」

主催：ヒマラヤ観光開発
日時：7月24日(土)~31日(土) 八日間
講師：川口邦雄先生
参加費：未定
問合せ：03-3574-9292
備考：マミヤカメラの貸出しあり

山岳写真家 「花畑日尚氏と尾瀬を歩く」

主催：原の小屋
日時：6月26日(土)~28日(月)二泊三日
9月23日(木)~25日(土)二泊三日
講師：花畑日尚先生 参加費：31,000円
問合せ/申込：0241-75-2038
備考：マミヤカメラの貸出しあり

クラブ撮影会後記

『北八ヶ岳 秋の原生林 撮影会』2003年10月17日(金)～18日(土)

10月17日、良く晴れた天候の下、中央高速をバスが走る。本日目指す目的地は白駒池。標高2100m以上の湖では日本最大を誇る、北八ヶ岳の玄関口である。

白駒池の魅力は池自体の綺麗さもあるが、周りに広がるツガやトウヒの原生林である。まるで緑の絨毯を敷き詰めたようなその光景は日本の原生の森そのままだ。駐車場でバスから降り、白駒池畔の白駒荘を目指し15分程歩く。白駒荘で昼食を摂った後はいよいよ撮影。ご指導頂く石橋陸美先生の的確で丁寧な説明に皆テンポよく、また念入りに撮影をして行く。徒歩で1周30分程の距離を3時間近くかけてじっくりと撮影した。再び駐車場までの道を歩き、バスに乗り込む。心地よく疲れた体を宿の温泉が癒してくれる。

夕食後の石橋先生の写真教室は盛り上が

り、何時終わるとも知れない写真談義に奥藜科の夜は更けていった。

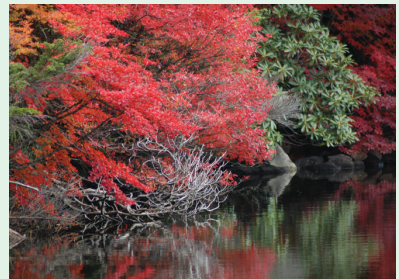
翌朝、宿周辺の樹林を撮影し、朝食。早々と身支度を整えピラタス藜科ロープウェイに向かう。ロープウェイで一気に標高2237メートルまで上り、坪庭にて高山植物や、ここ特有の縮枯現象が名高い縮枯山を撮影する。さすがにこの標高では気温も下がり、手袋なしでは指が動かなくなる。風も出てきたので早々と退散。冷えた体をバスで温めながらお弁当。その間にもバスはまだ紅葉が残るであろう八千穂高原へ向けひた走る。

八千穂に着くと穏やかな太陽が降り注ぐ、今が盛り期の紅葉が出迎えてくれた。さっきまでの寒さが嘘の様な、汗ばむ気候に、再び撮影欲が沸いてくる。何段にもなって流れ落ちる滝や、美人な白樺、一瞬の輝きを

放つ楓など目一杯の被写体に時間が過ぎる事も忘れ一心に撮影する。こうして撮影三昧の一日も日が傾きかけて終了。

撮影会の作品はこの会報の11ページから掲載されている通りである。すばらしい作品を沢山撮影された参加者の方々お疲れ様。優しく的確なご指導を頂いた石橋先生、本当にありがとうございました。

(吉)



『蔵王 樹氷・霧氷 撮影会』2004年2月13日(金)～14日(土)

冬の恒例、雪景色撮影会。今回は樹氷で高い山形蔵王にやって来た。

東京駅から山形新幹線に乗り3時間弱。山形に近付くにつれて車窓から見える景色に白の割合が増してくる。道中車内では様々な会話が飛び交うが、そのほとんどが天候についてだ。2月の蔵王の撮影と言うと人は総じて「晴れる事を期待してはいけない。晴れても1～2時間が勝負だ。」という言葉が返ってくる。しかもクラブは今年の雪景色撮影会も吹雪に見舞われている。クラブ員の期待と不安は否が応にも盛り上がらざるを得ない。そんな各々の期待を乗せて新幹線は山形駅にすべりこんだ。

はたして、山形は晴れていた。蔵王もウィンシーズンに幾度もないであろう2日間連続の大晴天。冬の撮影会指導2年連続となる花畑先生もほっとした様子だ。ロープウェイ、雪上車と乗り継ぎ宿に着く。

昼食の後、防寒服に着替わりフトに乗り本日の撮影目的地、樹氷原に辿り着く。スキーヤーやスノーボーダーが楽しそうに滑り降りていく姿を尻目に、樹氷に向かい撮影に勤しむ。防寒服を着ているのが可笑しくなるほど空は晴れ渡っていた。太陽が傾きだし、彩雲も姿を見せてくれた頃、林間迂回コースをゆっくりと歩き宿に戻る。

翌朝、宿の周りは木々に霧氷が付くと聞いていたのだが、晴天で空気が乾燥していた為か、まったく付いていない。撮影者は勝手なもので晴れていればすべてが良いと言う訳でもないようだ。しかし日の出前の着い雪の中に静寂と共に佇む黒い木々の風景には何か俳味とも呼べる美しさを感じられた。

宿に戻り朝食を取った後は大移動。蔵王の樹氷の中でも最も有名な地蔵山の山頂に向かう。さすがに標高が高く、樹氷の育つ

大きさは中腹の比ではない。積雪も多く巨大な地蔵が肩を出すのが精一杯だ。展望台や地蔵山の頂、思い思いの場所でクライマックスの撮影を楽しみ撮影行程は終了した。

今回は兎に角天気に恵まれた。その一点に尽きる撮影会であった。あとは各自の腕次第である。雪の中を少年少女のように歩き回り撮影した参加者の皆さん、ご指導頂いた花畑先生、本当にお疲れ様でした。

(吉)



マミヤカメラクラブ
次回撮影会案内

新緑と残雪のブナ林
開田峠 撮影会

日程:2004年5月28日(金)～29日(土) 一泊二日

場所:長野県 開田峠

指導:林 明輝 先生

定員:40名

マミヤカメラクラブ



写真を楽しむ・・・、
学ぶ・・・、そして集う。

写真を楽しむ、学ぶ、そして集う。

写真を通して写真を語り、撮影技術の向上を目指す方のためのクラブです。

マミヤカメラをご愛用の方ならどなたでもご入会できます。

講師指導の撮影会やクラブ員の全国フォトコンテスト、セミナーなどを実施しています。撮影会では機材の無料貸出しがあり、使用してみたいレンズなどを試せます。

宿泊撮影会ではセミナーが開かれ講師のアドバイスが得られるほか、愛機のクリニック(点検・清掃)も受けられます。会員の方には、ポイント券制度・修理割引・オリジナルグッズ特別斡旋などの特典があります。

入会金:1,050円(消費税込み)

会費:4,200円(消費税込み)2年会費

手続:入会のご案内(払込取扱票付き)を事務局にご請求下さい。

クラブ員特典

1.クラブ誌「マミヤギャラリー」の配布

クラブ員の皆さまの写真をより多く公表する場としてのクラブ機関誌「マミヤギャラリー」を年2回配布します。

2.ポイント券制度

製品購入時、雑誌掲載時、コンテスト入賞時、入会時、各種イベント参加時など各々にポイントが付きまします。このポイントを集めると素敵な商品と交換することができます。

3.修理代金の割引

ご愛用のマミヤ製品の点検・修理を依頼する場合には、通常の修理代金より割引いたします。

4.マミヤカメラクラブメール

クラブ主催のイベントや新製品情報など、写真に関する情報をいち早くお知らせいたします。

5.マミヤオリジナルグッズの特別斡旋販売

マミヤ特製オリジナルグッズをクラブ会員特別価格でご提供させていただきます。



入会のお申し込み、お問い合わせは
マミヤカメラクラブ・事務局
TEL.048-858-4826



マミヤカメラ・サービスセンター

修理をはじめオーバーホール、清掃などを専門に承ります。

また、マミヤ全機種を展示。実際に手にとって操作感や質感を確かめられるとともにお客様の個性に応じた商品選定などのアドバイスも提供しています。

また、操作上の疑問にもお答えしています。電話、ファクスでも承ります。

東京サービスセンター TEL 03-3375-3701 FAX 03-3375-3703 営業時間 10:00~18:00

大阪サービスセンター TEL 06-6541-5631 FAX 06-6541-5769 営業時間 9:00~17:00

土、日、祝日は休業

感動が宝もの Mamiya-OP マミヤ・オーピー株式会社

本社 〒338-8501 埼玉県さいたま市桜区西原 10-13-1

商品・修理に関するお問い合わせは、サービスセンターへご相談下さい。

東京サービスセンター 〒160-0023 東京都新宿区西新宿4-5-6西新宿IKビル TEL 03-3375-3701

FAX 03-3375-3703

大阪サービスセンター 〒550-0015 大阪府大阪市西区南堀江1-10-11西谷ビル TEL 06-6541-5631

FAX 06-6541-5769

インターネット《ホームページ》<http://www.mamiya-co.jp>



安全に関するご注意

正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に必ず使用説明書をよくお読みください。

修理に関するお問い合わせは、マミヤカメラ認定修理センターへお問い合わせください。

マミヤカメラ認定修理センター

北海道地区	株式会社タック カメラサービスセンター	〒060-0053 札幌市中央区南3条東4丁目 TEL011-221-8507 FAX 011-232-3344
東北地区	MCプロテック	〒983-0841 宮城県仙台市宮城野区原町5丁目3-44森ビル202 TEL022-297-3846 FAX 022-297-3867
東海地区	山田テクニカルサービス	〒496-0026 愛知県津島市唐臼町大門99 TEL0567-32-2708 FAX0567-32-3454
九州地区	山口カメラサービス	〒816-0097 福岡市博多区半道橋1-13-20 TEL092-451-0655 FAX 092-451-0655

※マミヤカメラ認定修理センターでは、商品の説明に関する業務はいたしていません。

MAMIYA ON LINE SHOP OPEN



マミヤでは、カメラホームページにてオンラインショップを開設しました。マミヤカメラクラブ会員皆様の多くのアクセスをお待ち申し上げます。ホームページアドレス <http://www.mamiya.co.jp>